２００５年度

Ｂｌｏｃｋ２　テュートリアル課題

課題番号５

胸　に　影

TWMU　Ｂｌｏｃｋ２　第一外科学　小山　邦広

胸に影　　課題シート１　　2005- B2- T2- 5

影山一郎さんは、普段から、健康には自信がありましたが、2年ぶりに検診を受けました。
気軽な気持ちで検診を受けたところ、“胸部X線写真にて異常あり、精査が必要”との結果でした。たばこが好きでやめられなかったこともあり、心配になりました。

資料１：胸部X線写真（正常，症例- 正面，側面）

胸に影　　課題シート２　　2005- B2- T2- 5

影山さんは東京女子医科大学病院呼吸器センターを受診しました。担当医から、「レントゲンで、異常な影が認められるので、胸部 CT を施行して、もう少し詳しく調べてみましょう。」と説明されました。

資料２：胸部 CT（正常，症例）

さらに、担当医から、「喀痰細胞診では異常な細胞は認めませんが、診断を確定させるため、気管支鏡で、気管支を観察し、細胞を取る検査が必要です。」と説明を受けました。
後日、経気管支肺生検(TBLB)、擦過細胞診を施行しました。
また、他に、頭部MRI、腹部CT、骨シンチグラフィーを、予約しましたが、影山さんは、「肺の病気なのに、何で、頭や、お腹の検査をしなければならないのだろうか？」と疑問に思いました。

資料3：経気管支擦過細胞診(症例，炎症例)

胸に影　課題シート 4　　2005 - B2 - T2 - 5

検査結果を聞きに受診すると、担当医から、「悪い細胞が、認められるので、手術したほうがいいです。」と説明されました。
影山さんは、「手術しないで済む方法はないのですか？」と聞きましたが、「化学療法や、放射線治療もありますが、手術でとるのが、最も、確実です。」と説明を受け、手術に同意しました。
呼吸器外科に入院後、左肺上葉切除術、リンパ節郭清術が行われました。術後は経過良好で第 10 病日に退院しました。

資料 4：摘出病理標本写真(マクロ)、
資料 5：摘出病理標本顕微鏡写真

病理検査の結果は、原発性肺癌でした。主治医からは、「組織学的に、リンパ節に転移しているので、少し進行しています。補助療法も考えています。」と説明されました。